

山口市市街地近郊のニホンザルの生息状況

田 中 浩

**Habitat of Japanese macaques near the suburb of Yamaguchi City**

Hiroshi TANAKA

山口県立山口博物館研究報告

第47号(2021年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.47(March 2021)



## 山口市市街地近郊のニホンザルの生息状況

田中 浩<sup>1)</sup>

Habitat of Japanese macaques near the suburb of Yamaguchi City

Hiroshi TANAKA

### Abstract

Group of Japanese macaques has been confirmed in a forest near the city area where habitat has not been confirmed so far. Stable populations were formed, and they were possible to observe how they lived freely while moving and foraging in Castanopsis oak Forest.

Key words; Japanese macaques, *Macaca fuscata*, camera trap, suburb, sociility

### はじめに

ニホンザル (*Macaca fuscata*) は、霊長目オナガザル科マカク属の一種である。本州、四国、九州、周辺諸島ならびに屋久島に生息する。ニホンザルは最も研究されている野生哺乳類である(高槻2008; 山極2008)。ニホンザルの社会は、群れと群れに属さない単独性のオスからなる。1つの群れは複数のオトナのオス成体と複数のメス成体とそのコドモからなり、群れで生まれたコドモの内、メスは一生を産まれた群れで過ごし、オスは性成熟に達する4-5歳ごろ生まれた群れを出て、よその群れに移入する。オスは生涯の中で、何度も群れを移り、群れから出て、次の群れに入るまで単独で生活するハナレザルとなる(鈴木2008)。

ニホンザルの群れは、血縁関係によって結ばれたメスとコドモたちと、血縁関係のつながりのないオスたちが一緒に暮らす母系的集団であり、社会的にも空間的にもまとまりを保って行動圏内を移動している(鈴木2008)。移動採食時には、群れの個体は声や視覚的にお互いが認知できる数百m以内に距離を保ち、長時間の休息時には群れのメンバーが見わたせる範囲に集まる(鈴木2008)。

ニホンザルは昼行性であるため、採食生態については、人なれした個体群で直接観察による詳細な食性の研究がなされている(半谷2008)。春は新葉を中心に、夏は成熟葉、キノコ、種子、昆虫など、秋は果実、種子、冬は成熟葉や落下種子を食べる。食性については、行動圏内の植生など生息環境により変化する。ニホンザルの行動圏は、移動しながら採食する行動から遊動域とされ、群れのメンバーが多いほど、遊動域は大きくなる傾向がある(半谷2008)。

ニホンザルの交尾期は10月～12月で、妊娠期間は約半年間で4月～5月に普通1頭の子を出産する(藤田2008)。新生児は0.5年で離乳し、離乳から性成熟までをコドモ期とし、メス0.5

---

1) 山口県立山口博物館(動物)

歳から3.5歳、オスは0.5から4.5歳としている。思春期を経て約7歳以上をオトナ期とみなしている（濱田 2008）。平均初産年齢は、自然個体でよく調べられている屋久島（鹿児島県）では6.1歳である。出産は同一個体が毎年行わず3年から4年に1度ある（藤田 2008）。最後の出産は21歳前後で、長寿であり30歳を超える個体もある（濱田 2008）。

母系で受け継がれるニホンザルの群れは非常に長く継続されると考えられ、遊動域として群れが生活するエリアでは、頻繁にニホンザルに会う可能性がある。山口県山口市の国道9号線の北側エリアで長期継続的な自動撮影カメラおよびビデオカメラで定点調査を行い、定期的に踏査調査を行っている。これら調査の中で、ニホンザルの群れの生息域でなかった地域で、ニホンザルの群れが定着している状況を報告する。

## 材料と方法

山口市の一の坂川より東側と、国道9号線より北側の住宅地、山口県立大学、スポーツの森を除く森林・田畑エリアを調査地とした（図1）。

2003年から2010年の自動撮影カメラは、Fieldnoteシリーズ（麻里府商事、山口）を使用した。2011年から市販の自動撮影ビデオカメラ（Wildview STC-TGL 5 IR, USA ; Primos truth cam35, USA ; Wildgame Model # W 5 EGC, USA; Bushnell Trophy Cam, USA; Keep Guard

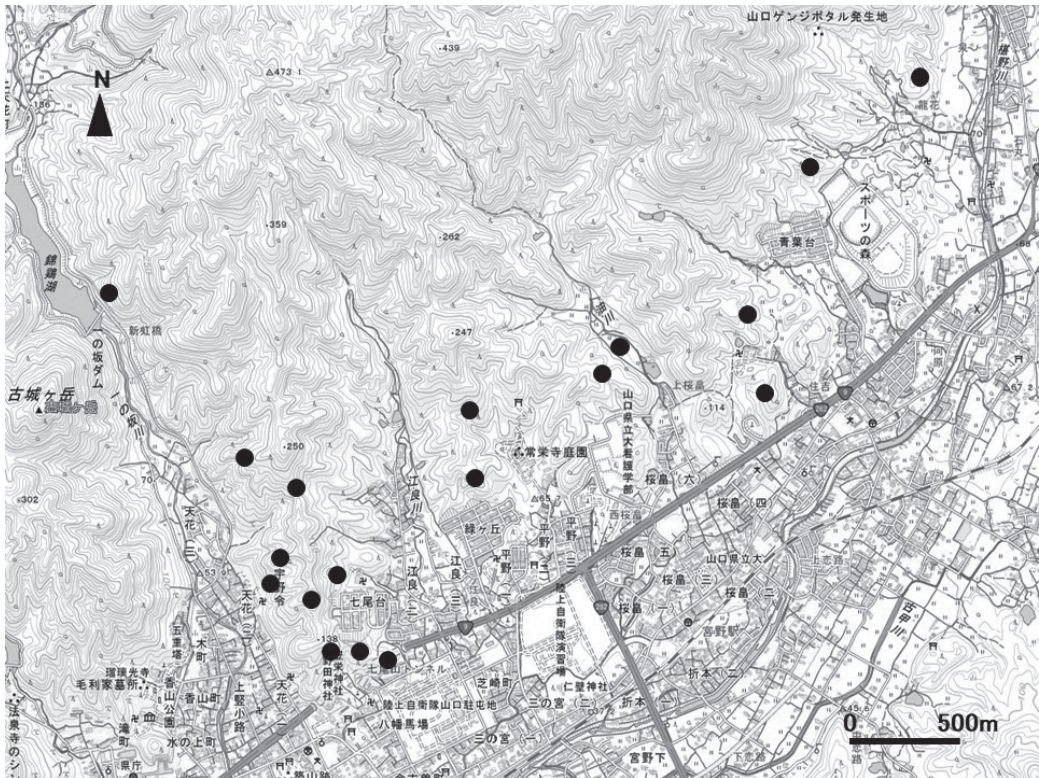


図1. ニホンザル群れの確認地点(黒丸)。調査地は一の坂川より東側、国道9号線より北側エリア。図は国土地理院地形図を加工して作成。



KG-550PB, China; Ltl-Acorn 6210, China; Ltl-Acorn 6310W, China) を使用した。撮影されたデータはすべて種と日時・場所・行動を特定した。カメラ・ビデオのメンテナンス時に踏査調査を合わせて行い確認できた動物の種・行動を記録した。

### 結果および考察

2003年から2008年までハナレザルは確認されたが、ニホンザルの群れの生息は確認できなかった(田中・衣笠 2008)。2009年以降の調査地におけるニホンザルの群れの確認地点を示す(図1)。2009年6月21日にニホンザルの群れがスポーツの森の北側のエリアで初めて確認された(図2)。2012年4月23日には西エリア突端部である国道9号線七尾山トンネル付近での群れが確認された(図3)。自動撮影ビデオカメラの画像解析度が向上するに従い、各個体の特徴や動きも鮮明にとらえることができるようになった(図4)。



図2. 初めて撮影されたニホンザルの群れ(スポーツの森北側) 春生まれた子と母ザル 2009年6月21日



図3. 七尾山トンネル上の住宅地に近いエリアでのニホンザルの群れ 2012年4月23日



図4. 採食しながら移動する群れ 人家の裏山(上桜島南面) 2018年9月2日  
A: コドモ B: 新生児を連れた母ザル C: オトナオス D: コドモ2頭

調査地はシイ・カシが中心となる里山環境である。谷部には田畑が広がり、起伏のある丘陵地が広がっている。生息確認できた住宅地そばの裏山の森から、途切れることなく西中国山地の末端にあたる標高700mを超える山地まで森林が続いており、広い森林内でニホンザルは自由に採食を行っていると思われる（図5）。新生児・コドモザルが多くおり、安定した個体群であると考えられる。しかしながら、住宅地に隣接しているため、地域住民とのトラブルも発生しており、農林作物への被害があり、捕獲罠が設置されている。

遊動域は特定できないが、調査地内には西エリアの一の坂川と江良川に囲まれた丘陵部の森を遊動域とする群れと、スポーツの森から江良川までの国道9号線の北側を遊動域とする群れの2群いると思われる。人との接点が多い住宅地近くに生息するニホンザルの群れが、人との距離を保ちながら生息できることを願う。

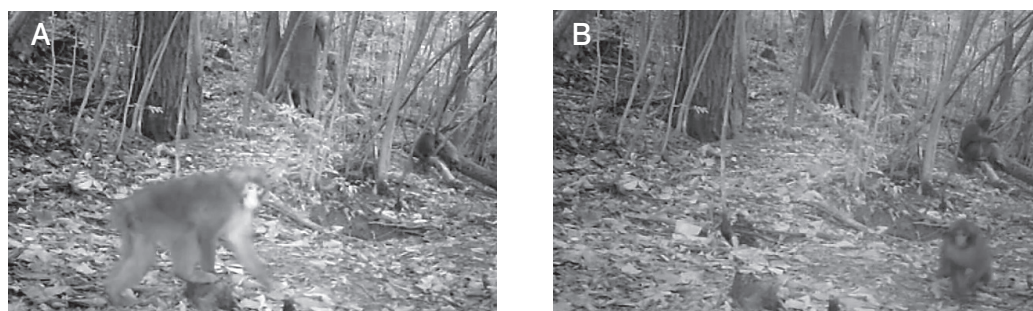


図5. 自由に採食しながら移動する群れ(天花の東側丘陵部) 2013年12月26日  
A: 若いメス B: コドモ2頭

### 引用文献

- 藤田志歩. 2008. 繁殖にかかわる生理と行動 ニホンザル. (高槻成紀・山極寿一編：日本の哺乳類学②中大型哺乳類・霊長類) pp.100-122. 東京大学出版会. 東京.
- 濱田稜. 2008. 身体成長と加齢 ニホンザル. (高槻成紀・山極寿一編：日本の哺乳類学②中大型哺乳類・霊長類) pp.53-75. 東京大学出版会. 東京.
- 半谷吾郎. 2008. 多様な食性帯への適応 ニホンザル. (高槻成紀・山極寿一編：日本の哺乳類学②中大型哺乳類・霊長類) pp.252-294. 東京大学出版会. 東京.
- 鈴木滋. 2008. 社会構造と系統的安定性 ニホンザルの順位と性から考える. (高槻成起・山極寿一編：日本の哺乳類学②中大型哺乳類・霊長類) pp.200-220. 東京大学出版会. 東京.
- 高槻成紀. 2008. 日本の中大型哺乳類 研究の足跡をたどる. (高槻成紀・山極寿一編：日本の哺乳類学②中大型哺乳類・霊長類) pp.1-28. 東京大学出版会. 東京.
- 田中浩・衣笠淳. 2008. 山口県山口市における自動撮影カメラで撮らえた野生哺乳類の動態 山口県立山口博物館研究報告34：17-34
- 山極寿一. 2008. 日本の霊長類 ニホンザルの歴史と展望. (高槻成紀・山極寿一編：日本の哺乳類学②中大型哺乳類・霊長類) pp.29-49. 東京大学出版会. 東京.